

会社員時代を振り返って

会員 林 頼信



1 はじめに

私は、大学卒業後、水回りを扱う大手住宅設備機器メーカーに就職し、8年余り勤務した後、退職した。この機会に、自分の会社員時代を振り返ってみたい。

2 新入社員研修

私が就職したメーカーの本社は、九州にあった。総合職での採用のため、日本全国、どこに配属されるかわからない。それまで東京で実家暮らしであった私は、不安と期待で一杯だった。

4月1日の入社式からゴールデンウィーク明けまでは、ひと部屋5人程度の寮に寝泊まりしながら、ビジネスマナーや自社の商品知識等を学ぶ新入社員研修を受講した。

寮では、九州の大学出身者たちと同部屋になり、私は、初めて芋焼酎を飲んだ。当時は、「何て臭いんだ」と思ったものだが、いつの間にか、好きなお酒のひとつになってしまった。

3 初赴任地

私は、石川県金沢市にある北陸支社に配属された。小倉駅から同じ新幹線に同期の仲間たちと乗り込み、広島、岡山、新大阪など、配属地近くの駅でそれぞれが下車していくため、車内からは仲間が少しずつ減っていく。私は、京都で皆と別れて北陸本線に乗り換え、金沢へ向かった。縁もゆかりもない土地にひとりで行くことになり、とても心細かったことを覚えている。

4 北陸での勤務

入社2年目には、隣の県にある富山営業所に転勤となり、そこで5年間勤務した。

北陸での6年間、私は、一貫して営業活動に従事した。製品を卸す先である専門商社や問屋が直接の担当

先であったが、それらに顔を出すだけでは、売上げは増えない。そのため、商流の先にある販売店、さらにその先の工務店や水道工事店にも足繁く通った。戸建住宅の新築やリフォーム工事の情報を工務店等の社長から聞き出し、建築図面のコピーをもらい、予算やエンドユーザーの要望に応じた提案等もしていた。

また、取り扱っていた製品は、施工が不可欠なものばかりであるため、製品自体には問題がないのに、施工ミスによるクレームがしばしば発生した。突然、工務店等の社長から電話が入り、物凄い剣幕で怒鳴られたりする。社長といっても、そこは頑固な職人である。怒らせたら相当大変だし、なかなか收拾がつかない。それでも、すぐに現場に駆けつけて直接話をすると、大抵は穏やかになってくれた記憶がある。

5 法務部への転籍、退職

そのような中、東京の法務部で、法務部員を1名募集するとの社内公募が目が留まった。少し迷ったが、チャンスと思い応募した結果、配属が決まった。

法務部には、2年3か月ほど在籍した後、結局、会社を退職した。法務部員として、いくつかの顧問弁護士事務所に出入りするうちに、法律の専門家である弁護士になりたいと考えるようになったからである。

6 現在

退職した後、司法試験に合格するまで、想定外に長い時間がかかってしまったのだが、現在は、希望した法律事務所に入所でき、弁護士として少しずつ実務経験を積んでいる。会社員時代のさまざまな経験が、現在の業務にも幾分か役立っているのではないかと感じている。全く別の世界から弁護士業界に入ったからこそ、依頼者や相談者が気軽に話せるような、身近な弁護士を目指したい。